

第3種郵便物認可

京

本に出る京都 司書「案内」

「高瀬舟」「Dの複合」「こち亀」…

地図、説明文 ネットで公開

京都府立図書館（京都市左京区）の司書グループが小説や漫画、若者向けのライトノベルに登場する府内の場所を調べ、インターネット上で公開を始めた。そのデータを活用して、作品の舞台までの経路を案内するスマートフォン用のアプリも登場した。登録地は今後も増やす予定で、京都の観光資源がさらに広がりそうだ。

府立図書館の有志



小説や漫画に登場する京都を調べる府立図書館の司書たち（京都市下京区）

司書14人で昨年6月につくった自主学習グループ「ししまろはん」が2月末、「京都が出てくる本のデータ」としてホームページ上に公開した。文学作品に出てくる京都の舞台を紹介する本やサイトは少なくないが、漫画やライトノベルまで対象を広げている。52カ所を紹介している。一覧表の中から見たい作品を選ぶと、地図上に位置とともに説明文が表示される。作品中で舞台としての京都がどれだけの比重を占めるかをパーセントで

舞台としての比重も 5段階で魅力評価

示す「京都度」や、その地での話の展開を「ドキドキ」や「ワクワク」など心情を示す一言で表現する。また、訪問地としての魅力を5段階で評価している。1000字程度で作品を要約しており、読書地ナビ」の中で使える。

観光アプリ 活用増える

案内の要素もある。メンバーがそれぞれ情報を集め、作品を読んで確認している。有名な文学作品では森鷗外の「高瀬舟」や「山椒大夫」、志賀直哉の「山科の記憶」、松本清張の「Dの複合」の舞台を載せている。漫画では「こちら葛飾区亀有公園前派出所」、部長の京都旅行の写真フィルムを駄目にしてしまった主人公・両さんが撮影で訪れる清水寺や祇園などを挙げた。「美味しんぼ」では錦市場で包丁や鍋などを扱う老舗「有次」を取り上げた。このデータをスマホで活用できるソフトを、府内の観光団体などをつくる「京都フラワーツーリズム推進協議会」が作った。無料アプリ「こ当品を要約しており、読書地ナビ」の中で使える。

（樺山聡）